

会 議 録

会 議 名	令和6年度第2回東浦町子ども・若者会議	
開 催 日 時	令和6年9月12日（木）午前10時00分から午前12時00分	
開 催 場 所	東浦町役場 合同委員会室	
出 席 者	委 員	原田委員（会長）、石原委員（副会長）、恒川委員、山崎（千）委員、竹内委員、石川委員、舟橋委員、山崎（紀）委員、友永委員、中山委員、浅井委員、岡本（貴）委員、吉田委員、水野委員、中西委員、加藤委員、山田委員
	事務局	健康福祉部長、児童課長、児童課指導保育士、総合子育て支援センター所長、健康課長、学校教育課長、学校教育課主幹兼指導主事、生涯学習課長、生涯学習課生涯学習係長、児童課保育係長、児童課児童福祉係長、児童課児童福祉係主査、児童課保育係主事
欠席者	岡本（嘉）委員	
議 題 (公開又は非公開の別)	東浦町子ども計画素案について（公開）	
傍聴者の数	2名	
報 告 内 容 (概 要)	東浦町子ども計画素案について ※事務局からの報告等及び委員からの意見等は別紙のとおり。	
備 考	議題前：①児童課長より傍聴についての説明 ②児童課長より資料確認 ③会長挨拶	

別紙 報告内容 (概要)

事務局	<p><u>議題 東浦町こども計画素案について</u> 「東浦町こども計画素案」に沿って、事務局より説明。</p> <p>【第1章「計画の策定にあたって」について】 【第2章「子ども・子育てを取り巻く現状」について】</p> <p>【事前質問への回答】 ・事前質問資料の質問① 47 ページ課題1の3行目「保育人材の確保等、保育の質の向上に向けた取組」の具体例は、人材確保とし、大学訪問での東浦町のPRや、中学校や高校で保育士という仕事の魅力を伝える機会を設けている。新任保育士へのフォロー面談を実施し、経験年数ごとに情報共有できる場を設けたり、ICTの導入、事務の見直しをしたりすることで、事務時間が効率化され、語り合いの場がとれるよう、最適な環境の提供をすることも心がけていく。</p>
委員	<p><質疑意見等> 45 ページ「最近、困っていること」で、「給食が足りない」「偏食で食事が食べられない」「母親がかまってくれない」というような意見が挙がっているが、これらは聞き取っただけで終わるのか、何らかのフォローがされるのか。</p>
事務局	<p>子どもたちの意見に関しては、児童館を通じて何らかの形でフィードバックすることを検討している。</p>
委員	<p>質問1で保育士の不足が言われている。先日の新聞に東浦町議会で議題となった「保育士不足について」という記事が載っていた。記事を読むと、途中で辞める方が多く、新規採用人材の確保も難しいという内容だった。途中で辞める方は、新規採用の方との給与の差がないことが不満につながり、退職に至るのではないかと懸念する。保育士不足が解消されないと、子育て支援は根柢から揺らぐと思う。今後の対処方法をお聞かせいただきたい。</p>
事務局	<p>現状では途中で辞める保育士が多いということだが、給与等が理由ではないと考えている。東浦町では若い保育士が多い傾向にあるので、結婚や出産、また転職が理由になる場合が多い。転職に関しても、「保育士という仕事がいやだから」ということではなく、「他の仕事にチャレンジしたい」という方も多い。</p>
委員	<p>正規職員と非常勤職員、常勤職員で同じ仕事をしているが、正規職員のほうが、いろいろな面で待遇がよいということから不満が生じ、非常勤職員、常勤職員が辞めていくということはないのか。</p>
事務局	<p>正規職員と会計年度職員を比べると、仕事の内容が異なっているが、そのようなことに不満をおもちの方もいるのではないかと考えている。実際に、私どもが退職者に聞き取りをするときに、正直にお答えいただけない場合もあると感じている。そこをどのように汲み取り、風通しのよい職場にしていけるのか、一番の課題だ</p>

	<p>と考える。</p> <p>現在、保育士職の事務の軽減等のためのICT化に取り組んでいる。しかし、保育士不足は全国での社会問題であり、本町だけ充実すればよいという問題でもないと考え。限られた数の保育士をどのように子育てにつなげていくのかということは、ある程度、国が方向性を示す中で考えていくべきところである。</p> <p>東浦町には公立保育園が多く、民間保育園が少ないので、そのバランスの悪さが課題としては挙げられる。今後は民間保育所も誘致しながら、両者のよいところを保護者の方々が理解し、保育所、こども園、幼稚園を選択して通わせていただけるようにすることが最適だと考えている。現在、民間保育園の誘致に関する計画を児童課で検討している。</p>
委員	<p>潜在保育士が多いということが社会的に言われているが、保育士の給与の低さが指摘されている。そのような状況でも保育士の職につきたいと思う方は、ご自身が通える近隣の市町村の中で、より待遇がよいところを受験すると聞く。働きやすさ、相談のしやすさということも重要だが、やはり給与の額も関係すると思う。難しい課題だが、多くの人材を確保するための支援が必要だと感じる。</p>
事務局	<p>公立保育園での一番の問題は、公務員という身分なので、気軽に給与を上げることができないことだと思う。また、東浦町の地域手当が、近隣の市にくらべて大きく低いということは大きな課題だと思う。これは制度として問題があると考え、国に要望として働きかけている。国も、地域手当の高い地域に保育士が集まる状況を問題視しており、制度改正を考えている最中だと認識している。</p>
委員	<p>保育士は子どもを相手にするので、大変な職種であることも考慮して、給与を設定していただきたいと思う。</p>
事務局	<p>初任給に関しては、公務員は民間よりも低い値だが、10年後には逆転現象が起これと言われている。ただ、10年以上働いていただける保育士は少ないということで、意味がないと思う。</p>
委員	<p>給与よりも、職場の人間関係のほうが、大きな要因だと思う。園での人間関係に行き詰まって退職していく方が多いように思う。一番大事なことは、人間関係と職場環境づくりだと思う。「東浦町の保育士の人間関係は非常によい」と言われるように、うまく展開していけるとよい。</p> <p>身近に、挫折して退職した人がいるが、原因は保護者からのクレームと職場環境だとお聞きした。</p>
委員	<p>応募者20人の中から10人を採用するのと、11人、10人の中から10人を採用するのは違うと思う。多くの人の中から採用することができれば、よりスキルや人間関係の築き方という点において、希望に合致する方を採用することができると思う。</p>
委員	<p>民間保育園を運営しているが、この5年ほど、保育士は誰も辞めていない。保育士は10人ほどしかいないが、園長は非常にコミュニケーションをとることを重視している。それは大変大切なことだと実感している。昨年、退職希望者が出たときに、</p>

<p>委員</p>	<p>理由を聞くと「東海市の新規保育園が、大変高い給与を出す」ということだった。それほどの大幅な給与アップは難しかったが、結果的には人間関係を理由に残っていた。</p> <p>東海市の給与が高いということが分かると、それをきっかけに多くの方が退職する危険もあると思う。他市の給与についても、把握する必要があると思う。</p> <p>民間保育園の誘致等、東浦町でも新しい取組があると、保育士にとっても非常に魅力的に感じられ、給与の金額以外部分にも目を向けていただけたと思う。</p> <p>人間関係は非常に大切だと思う。知多市と東海市にある3園で意見交換している。名古屋市に本部があり、保育園もいくつかある。役員が5人ほどおり、その役員が、定期的に全職員に面談を実施している。ふだんから園長や副園長が職員に声をかけ、何でも相談を受けると伝えているが、なかなか相談しにくい場合もあるということで、役員面談を実施することで、問題が指摘され気づくこともある。それを園長、副園長に伝え、職員の待遇改善につなげることができるとよいと考えている。</p> <p>毎年、夏休みに北部中学校の生徒が職場体験に来るが、教え子と再会して感動し合うこともある。長く勤めていて、経験豊富な保育士も多いので、若い保育士を引っ張っていつてくれている。人間関係の大切さを痛感している。</p>
<p>委員</p>	<p>難しい課題だが、行政としては、長く勤めていただける環境を整えることが大切だと思う。人間関係については、計画の中に書き込みにくいと思うが、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>新規採用の保育士には、ていねいに大事に育てていきたいと考えており、1年目の保育士にはフォロー面談を実施している。近い先輩職員に担当になってもらい、月に1回、仕事の悩み等、何でも相談できる体制をとっている。面談後の報告を、人事に送っていただくが、その報告を大事に考えており、フィードバックをすることで、長く勤めていただきたいと考えている。</p> <p>人間関係については、「語り合うこと」が非常に大事だと考えている。今後、ICTの導入で、事務の効率化が少しでも進み、時間ができれば、子どもに関する語り合いの時間が増えると期待している。保育の現場では、個々の子どもの成長、発達を促すことが一番大事だと考えているので、それについての語り合いができればよい。</p>
<p>事務局</p>	<p>毎回の採用試験の際に、保育士に「大事にしている言葉」をお聞きしている。その言葉を記録し、その後に面談等で接するとき、参考にしている。私自身は、「気づく」という言葉を大事にしている。役場のしくみとして、新規採用者にフォロー面談を実施しているが、昨年度から、「1年目の職員だけで集まる」「2年目の職員だけで集まる」という具合に、全職員を年次ごとに集めて、グループワークを実施している。それを通して、なかなか一緒には働けない同年代の考えに「気づく」ことが大切だと考えている。私たちには相談できなくても、同期の職員には相談できることもあると思う。</p> <p>仮に、結婚や出産、転職等で離職しても、カムバック採用制度があり、再度採用されることが可能である。自分が勤めた保育園で「育ててもらった」という意識がある方は、また戻ってくることもあると考え、そのようなことも意識しながら、で</p>

<p>委員</p>	<p>きることに努めている。</p> <p>補足する。私どもの保育園でも、辞めた保育士に手伝っていただくことがあるので、話を聞くと、新人を超えて、中堅の立場になると、保護者の対応もあり、責任も生じてくるし、新人の面倒もみなければいけなくなり、手いっぱいになるということだった。保育士という仕事は好きだが、仕事が忙し過ぎて飽和状態になってしまったということだった。リフレッシュ休暇のようなものもないので、「とりあえず辞めて逃れたい」という気持ちになるのだと思う。中堅の保育士が辞めるということは、大変残念なので、時間の余裕をつくってあげられるとよいと思う。退職した保育士は、病院の保育室のような、時間にゆとりがある職場を選んでいる場合も多く、「子どもに関わっていたいが、時間の余裕がほしい」ということだと思う。そのようなことも考慮していただけるとよいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>「親が育っていない」と感じることもある。男の子同士のケンカの後で、親が仕返しをしようと、相手の子どもを追いかけまわし、それを保育士が止めたという話を聞いた。保育士の辛さを想像すると、親も一緒に成長していける環境でないと、保育士は戻ってこないと思う。親の教育は、難しい課題だとは思いますが、進めていただきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>45 ページには、上の段で、いろいろな施設が提案されているが、東浦町としては、どんな施設を計画しているか知りたいと思う。</p> <p>スケートボードをしている子どもたちが多いが、行く場所がないということだった。三丁公園やみどり浜緑地の多目的ひろばがあるが、グラウンドだけでなく、スケートボードのコースをつくってほしいという意見が多い。時間がかかることだが、町としては、今後そのような施設をつくる計画はないのか。</p> <p>プールがなくなってしまったので、水泳ができる施設をつくる計画はないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>スケートボードは都市型のスポーツで、広い場所は必要ないが、公園等でできるスポーツで、オリンピックも含め話題になり、子どもたちの関心も高まっている。スケートボードの問題点は、音が大きいことや人が集まること等であり、設置する場所を選ぶ。</p>
<p>委員</p>	<p>そのような要望もあるということだが、何をメインに進めていくのかをお考えいただきたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>【第3章「計画の基本理念、基本目標」について】 【第4章「施策の展開」について】</p> <p>補足であるが、今後、役場内の組織改編を予定しているため、掲載されている担当課名は変更になる場合がある。次回以降の会議の場に間に合えば、ご確認いただきたい。スケジュールによっては、事務局で担当課名を修正させていただくことをご了承いただきたい。</p> <p>【事前質問への回答】</p>

	<p>事前質問資料の質問②</p> <p>東浦町でも、部、課の再編を行い、東浦版こども家庭課をつくり、「子どもなんでも解決窓口」のような窓口で一括して解決できないかというご質問ですが、現在、町では、来年度に向けて組織改編を検討しており、子育て・教育を一元化できるよう、学校教育課に児童クラブ関係事務を移す等、子どもと福祉を町の軸とし、それらの事業を一元的に進めやすい組織づくりを考えている。</p>
委員	<p>事前質問資料の質問③</p> <p>「子どもなんでもハンドブック」の作成とPRを希望するというご意見だが、現在、東浦町の子育て情報を集めた「たのしく子育て」という冊子を発行している。毎年度見直しを行っており、妊娠・出産・子育てに関するサービスが網羅されている。配布方法は、母子手帳交付時にお渡しするほか、保育園や学校、図書館等の町内施設や商業施設、医療機関等で配布している。</p> <p><質疑意見等></p> <p>昨日参加した別の会議では、5市5町の子どもたちの現状が示された。コロナ禍から不登校児童が倍増しているという報告があった。本日の資料の中にも「もっと大人が介入してほしい」「いじめっ子から逃げる場所をつくってほしい」というような切実な意見があった。何とかしなければいけない問題であり、今後、落ち着いていくのか、より増えていくのか、分からない。知多半島では1,500人の中学生が不登校だということで、大変大きな数である。教育委員会も努力はしているが、このような機会に、皆さまからもご意見をいただきたいと考えている。この場合は、限られた時間なので、事実を知っていただくだけでも結構である。</p>
委員	<p>放課後児童の居場所の確保や、東浦町の学校では、学校運営協議会が設置されており、コミュニティ・スクールを設置している。まだ全校ではないが、地域学校協働活動のコーディネーターが配属されている学校が増えている。</p> <p>研修で、他県や他市町では、放課後の子どもの居場所の確保等にコーディネーターが入り、地域の方にお手伝いをご参加いただく形をとっていることをお聞きした。現状では、私を含めたコーディネーターは、何をしたらよいのか分からないという状況だと感じる。私自身は、校長先生と相談した上で、新しいことを次々始めるのではなく、対象の小学校の中で、授業の一環として行っている活動に、地域の方に、講師や見守りという形で入っていただくことから始めることにして、活発に動き始めたところである。</p> <p>そのようなことも知っていただき、児童課や学校教育課が行う事業は、コーディネーターが活動できる場になり得るので、ぜひお声がけいただきたい。地域の方を巻き込んでお手伝いいただき、子どもたちをみんなで見守っていくような形をつくれるとよいと考えている。</p>
委員	<p>コーディネーターは、学校と地域を結びつける役割をされていると理解している。</p>
事務局	<p>現在は7名のコーディネーターがいる。不登校は全国的な問題であり、東浦町でも非常に増えている。国の方向性もどんどん変わってきており、「必ず学校にいかなければならない」という考え方はなくなってきた。居場所に関して、コーディネ</p>

<p>委員</p>	<p>ーターに地域とつないでいただいている。どのような形で子どもたちを見守っていくのかということだと思う。コーディネーターを始め、皆さま方にもご協力をいただきたいと思っている。</p> <p>不登校やいじめが増えているが、格差や貧困という言葉が出てくるように、問題が非常に複雑化している。親が抱えている問題等と、子どもの不登校やいじめが複雑に絡んでいる。学校で、不登校の子どもだけ対応しても、問題の解決につながらない場合もある。</p> <p>東浦町のNPOや社会福祉協議会でも、こども食堂のような事業を展開しており、朝食を提供する取組をしている。そのようなところにつなぐことが大切で、教師が1人で問題を抱え込むのではなく、地域のいろいろなところにつなげながら進めていってほしい。</p> <p>スクールソーシャルワーカーが、そのような任務に当たる人だと理解している。東浦町も進んできていると感じた。それについて、教育委員会のお考えをお聞きしたいと思う。</p> <p>私は、こころの健康相談員の方に、スクールソーシャルワーカーの仕事を担っていただければよいと考えていたが、それは違うかもしれないと思った。専門的な知識をもつ方に、学校と地域、役場の関係課につなぐ役目をしていただけると、大きく違うと思う。町として、現実の不登校の問題をしっかりと打ち出してこそ、次のレベルアップが望めると思う。</p> <p>一番大切で、最初に手をつけなければいけない部分から、手をつけていく必要があると感じている。お考えをお聞かせいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>社会福祉協議会にはソーシャルワーカーがおり、地域にアウトリーチして、困り事を関係機関につなぐということをしている。同じようなことが、学校現場でも必要だと感じている。100人いれば100通りの対応方法がある。画一的な手法をとれば、不登校や家庭の問題が解決するというのではないと思っている。そのような意味で、学校と家庭だけ、教育委員会だけ、一部の地域の方だけでは解決できない問題が大変多く、苦慮している。</p> <p>そのような中で、昨年1年間の不登校の人数は216人で、5年前とくらべると倍増している。社会福祉の観点をもった、学校とは異なる、第三者的な目をもった専門家からの支援も必要だと考えている。経済的に可能かどうかということも含め、努めていきたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>スクールソーシャルワーカーは、実際に配置されているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>子どもと親の相談員が兼務という形で、スクールソーシャルワーカーを務めている。</p>
<p>委員</p>	<p>コミュニティソーシャルワーカーが、地域と問題のあるところをつないで、うまく対応しているということ、社会福祉協議会に入って知った。困りごとをNPOと連携しながら進めていくというような、いろいろなことができる可能性を秘めている。</p> <p>実際に、子どもと親の相談員については、学校関係者か保育園関係者であり、校</p>

	<p>長先生や園長先生を経験されたような方であるが、限界があると感じている。</p>
事務局	<p>そのような配置が望ましいと私どもも考えている。財政が厳しい中で、粘り強く考えを説明して、何とかご理解いただけるように努めたい。地域の皆さんとも、課題を共有できるとよいと思う。</p>
委員	<p>やはり人間関係が一番大切だと思うので、うまく関係を築けるとよいと思う。世の中の無駄を省いた結果が現れているようにも思うので、無駄なことはなく、手をかければよかったと思うこともある。地域のコミュニティも希薄化していることが残念である。声かけすることで、人の存在に気づくこともあるので、大切なことだと思う。</p>
委員	<p>不登校の子どもが増えていることは聞いていたが、近くにもそのような子どもがたくさんいると、改めて感じた。私たちボランティア団体も、そのような子どもを対象にした居場所づくりを始めている。ただ、情報がなかなか入手しにくい状況なので、学校で一括して、市内のボランティア団体の一覧を配布していただく等、情報を発信していただきたいと思う。私たちが情報をいただけないのであれば、せめてこちらの情報をお伝えいただきたいと感じている。</p> <p>このことは、不登校に限っていない。町内には給食しか食べられない子どもがいる。こども食堂のようなものも増えているので、情報を伝えていただき、子どもが来ていただけるような方策をお考えいただきたいと思う。情報があれば、お弁当の配布を始める等、臨機応変に対応することも可能なので、ぜひご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>町内にも、こども食堂等の民間支援団体が存在しているので、それらの一覧が網羅されているようなチラシ等があればよいと感じている。そのチラシ1枚をみれば、頼る先が分かるようなものをつくりたいと考え始めている。内容が整った時点で、またご相談をさせていただきたい。</p>
委員	<p>スクールソーシャルワーカーは、大変有り難いと感じた。今年度の予算でスクールソーシャルワーカーの配置をすることを、学校現場の声として、学校教育課にお願いしてある。ぜひ、配置をご検討いただきたい。</p> <p>3点、質問させていただく。母子手帳配布のときに、「たのしく子育て」をお渡ししているということだが、転入してきた方には、すぐ届いているのか。本市には外国籍の方が多いが、その方たちへは翻訳されたものが届いているのか。</p> <p>ラーケーションについては、保護者から、「親が休める環境にない」というような不満のある声が、学校にも届いている。企業への働きかけという点では、どのような対策をとっておられるのか。</p> <p>ひがしうら地域クラブについて、東浦町では、5市5町の中でも率先して、部活動の地域移行をとっている。ひがしうら地域クラブの内容に、「中学生から高齢者まで」という記載があり、多世代にわたるという考え方で運営しているのだと思うが、具体的に、今後、どのように活動が進められていくのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>1点目。「たのしく子育て」の冊子は、出生届を提出されると配布される。また、保健センターで、乳幼児健診時にもお渡しできる体制をとっている。転入された方</p>

	<p>には、保健センター等でお渡ししているし、地域の居場所である児童館でもお渡しできる。いろいろな講座や遊びの場も設けているので、そのようなタイミングで、転入者にも行き渡るように努めている。</p> <p>翻訳されたものはできておらず、今後の課題だと思っている。フィリピンの方にはコミュニティがあると聞いているので、通訳の方を通じて情報をお届けしているが、ブラジルの方はコミュニティがないと聞いている。読めない方やコミュニティに属していない方には情報が届いていないということが課題だととらえている。</p> <p>2点目。ラーケーションは県の取組であるので、実際に企業への働きかけを行っている状況だと思う。実際に、どのような働きかけを行っているのか把握していない。</p> <p>3点目。現在は、小学生については考えていない。将来的に、クラブの形として可能であれば、そのような体制にできればよいと考えている。「中学生から高齢者までの多世代で」という表記があるが、今年10月からつくる総合文化クラブで、講師をお願いしたいと考えている。「幅広い世代の方が一緒に集う機会」という表現になっている。</p>
事務局	<p>【第5章「教育・保育及び地域子ども子育て支援事業の量の見込みと確保方策」について】</p> <p>【第6章「計画の進行管理」について】</p> <p>【事前質問への回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前質問資料の質問④ <p>来年度の年少児の教育認定（1号認定）児に対して、近隣市町村の幼稚園等を検討するように促しているのかというご質問をいただいた。今年度については、来年度の体制が整備されていない中で、来年度の保育士の採用状況及び第1回入園申込みによる定員の空き情報で、3歳教育認定時の受け入れを判断することとした。今後、同様に保育体制が整っていないことを踏まえ、町外の幼稚園及び認定こども園の施設も選択肢の1つとして検討していただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前質問資料の質問⑤ <p>1号認定の量の見込みが、第2期事業計画とくらべて半数以下になっている理由としては、令和7年度に関しては、子育て支援に関するアンケート調査の結果を反映した数値となっている。次回のこども・若者会議までには、現状に合わせて、数値の補正を行っていく予定である。</p>
委員	<p><質疑意見等></p> <p>86 ページの子どもの人口の見込みは、令和11年度には8,823人となっている。第2期をみると、令和6年度には4,813人になるという見込みだったものが、5,000人を超えている。コーホート変化率法に関する知識がないが、東浦町には、持家をもちたいという方が転居してくるという印象が強い。転入者があると、予想の数値からずれてくるように思う。ずれが生じると、この項目以降についても、例えば、設備は大丈夫なのかということが問われるのではないかと思う。</p>

事務局	<p>コーホート変化率とは、ここに載っていない過去5年、令和2から令和6年の各年の変化率を出し、まず5年間の平均変化率を出し、2024年の人口に変化率をかけていくという手法である。特段大きな人口動態の変化に関わる要因がないという仮定の下、1歳以上では、各年の人口の変化率を出し、過去5年の平均を用いて、この先5年間の推計を出している。それを繰り返して、令和11年までの変化率を出している。0歳に関しては、前年の15歳から49歳の女性に対して、翌年に生まれた0歳が何人いるのかという出現率を用いて推計を出している。考え方としては、実績の変化率に基づいて推計を出すということである。</p>
委員	<p>令和2年の第2期では、400人ほど減少すると言われていたが、実際には200人程度の減少だった。そのようなデータも含めて、その先を考えるということなので、全国平均でコーホート変化率ではなく、東浦町の特徴を含めて推計するということか。</p>
事務局	<p>前は、平成27年から令和元年までの人口を用いて推計を出した。今回の実績は、前回の実績とは違うので、今回の推計は少し高めに出ている。人口の減少が少し緩やかだったということである。</p>
委員	<p>保育園同様、児童館の先生も不足して、とても大変だとお聞きしているので、改善していただけるとよいと思う。</p>
委員	<p>保育士の希望者が減っているということだが、子どもを相手にする仕事、人間を相手にする仕事が、いかにすばらしいかを伝える活動に感謝している。</p> <p>スクールソーシャルワーカーやこころの健康相談員は分ける必要があるというご意見だったが、私も退職後、重ねて、こころの健康相談員を務めたが、とても大変だった。特に、不登校に関しては、いろいろなケースがあり複雑だと実感したので、各学校に専門的に対応できる人が必要だと感じている。</p>
委員	<p>ラーケーションに関しては、小さな会社にとっては混乱を招く取組だと感じたが、小学2年生の子どもの友達の話を知ると、始めたことが正解だったと考えている。親は仕事をするのが当たり前で、なかなか子どもとのコミュニケーションをとる機会は少ない。ラーケーションで、1日通して子どもと接する日を設けるということは、大変大事なことだと感じる。</p>
委員	<p>学習障がいがあり、学校に行けない子どもに関して、担任の先生の理解が得られない場合がある。親が障がいを認め、担任の先生に相談しても、「ガッツが足りないだけ」と言われてしまうと聞いた。障がいをもつ子どもが増えている中で、教師の知識が追いついていないと感じる。多忙だと思うが、そのような新しい知識の取り入れを積極的にすることが必要だと思う。</p>
委員	<p>2点申し上げる。1点目。質問事項⑤にもあるように、令和6年9月1日時点の教育認定児が約460人、令和7年度は241人という記載があり、補正されると思うが、もし、確保量に合わせて減らしたのであれば、問題の本質が見えにくくなってしまうと思う。足りないのであれば「足りない」と記載したほうが、問題の本質を</p>

	<p>正しく示すことができると思う。</p> <p>2点目。63ページの下から1つ目、3つ目、4つ目は国際交流や英語等、グローバル教育に力をいれていくということが書かれているが、以前に実施していた学生の海外研修は、現在は実施していないと認識している。復活することも考えているのか。</p>
事務局	<p>1点目に関しては、次回の会議までには検討、対応させていただく。</p>
事務局	<p>2点目に関しては、学校教育課というよりも、町の方針として、限られた生徒だけが海外での国際交流ができるというような狙いではなく、幅広く、児童も生徒も国際交流に関わっていけるようにするということである。</p> <p>例えば、外国語の指導助手ALTの活用をしている。次年度の令和7年度からは、町でもALTの会社と連携して、「イングリッシュキャンプ」を実施したいと考えている。実際には宿泊はしないのだが、町の施設を利用して、例えば、「ゲートをくぐってからは外国語のみ使用する」というような活動である。また、現地校とのオンライン交流も連携の部分に入っている。主に、現地校では中学校を想定しているので、こちらの中学校からのニーズがあれば、そのようなことも対応可能である。学校教育課としては、一部の子どもだけが海外に行くことへの反対意見が出たこともあり、一部ではなく、広く行っていくという方針で進めている。</p>
委員	<p>努力して力をつけた子どもが経済的に難しいという場合には支援を受けて海外に行くということは、1つのチャンスだったと思う。</p>
事務局	<p>海外派遣については、現在、再開は考えていないが、ご意見を参考にさせていただき、何らかの方法で、グローバル教育を進めていけないか検討させていただきたい。</p>
事務局	<p>次回第3回会議：10月11日（金）午前10時より合同委員会室で実施予定 計画素案を確定し、その後、内部会議に提出、町議会に報告という流れになり、最終的には、来年1月か2月の会議で計画確定する予定。</p> <p>以上で会議終了。</p>